

令和8年6月 急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランス

宇都宮市のARIサーベイランスについて

本市では、市内12か所の定点医療機関からARIと診断された患者の数を毎週、御報告いただいています。これによって、宇都宮市におけるARIの流行状況を把握することができます。

また、患者数の報告を行う定点医療機関の中で、病原体分離のために検体採取を行う医療機関（病原体定点）が、市内に2か所定められており、採取した検体は宇都宮市衛生環境試験所にて、以下の呼吸器ウイルスの遺伝子検査を行っています。

検査対象病原体：インフルエンザウイルスA/B、新型コロナウイルス、
RSウイルスA/B、ヒトパラインフルエンザウイルス1～4、
ヒトメタニューモウイルス、
ライノウイルス/エンテロウイルス、
アデノウイルス

患者発生状況

【定点当たり報告数（図1）】

- ・ 2026年第19週における定点当たり報告数は44.67（前年47.00）で、前週の第18週の報告数63.92から減少がみられました（第19週は5月の連休のあった週）。翌週の第20週には48.58（前年70.17）、第21週には52.42（前年55.83）、第22週は56.50（前年63.00）となりました（図1）。
- ・ 定点当たり報告数について、栃木県（宇都宮市を含む）では第22週62.17（前年81.72、第21週61.45）、全国平均は47.18（前年58.63、第21週46.81）でした。

【患者の年齢構成（図2）】

- ・ 5月期の最終週（第22週）の年齢別割合は、0-14歳が73.9%、15-59歳が15.3%、60歳以上が10.8%で、4月期同様、15歳未満が患者全体の約70%を占めました。

図1：定点当たり報告数の推移

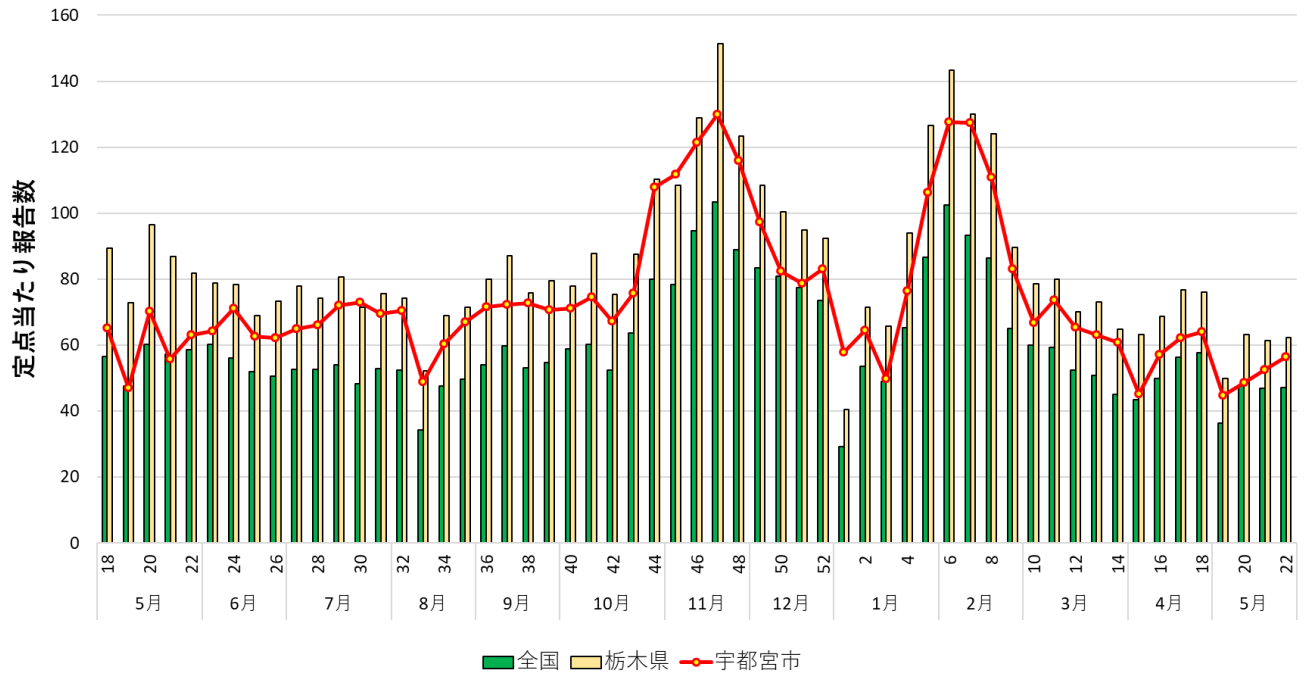
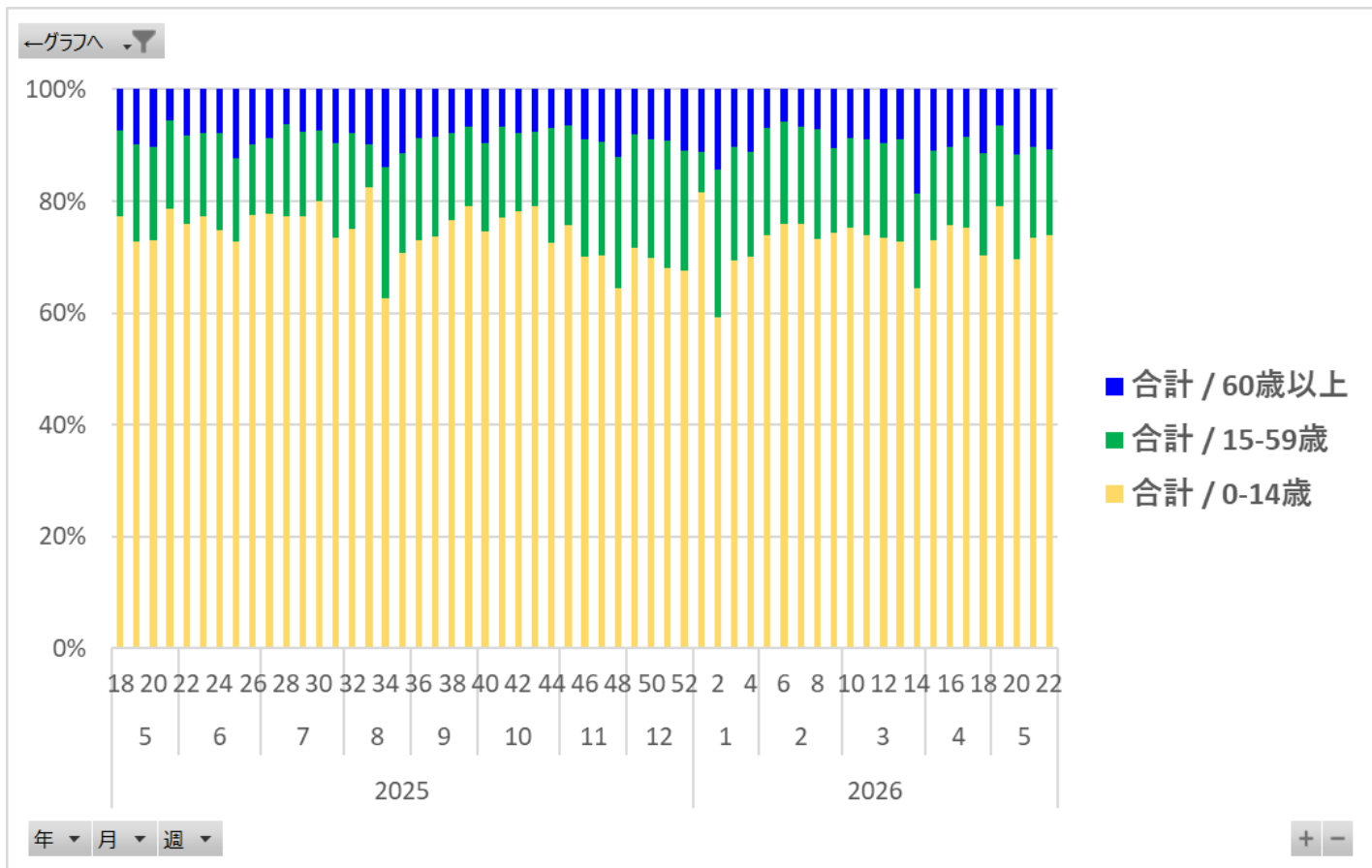


図2：患者の年齢階級別割合の推移



病原体検出状況

【病原体検出状況（表1，図3）】

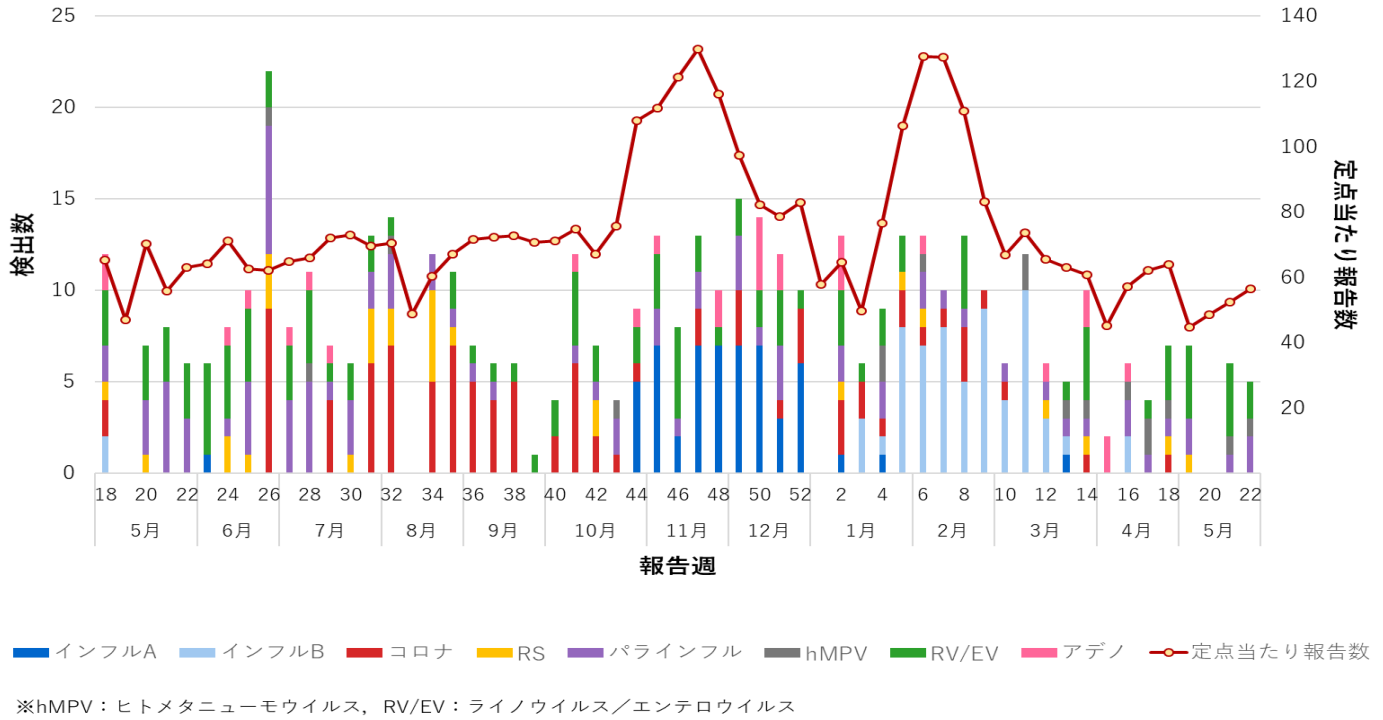
5月期（第19～22週）に採取された40検体のうち、23検体から何らかの病原体が検出され、陽性率は57.5%（前年は70.0%，4月期は51.3%）でした。5月期に多く検出された病原体は、ライノ/エンテロウイルス（13件）とヒトパラインフルエンザウイルス（7件）で、次いでヒトメタニューモウイルス（4件）でした（表1）。

表1：病原体検出状況（月別）

	5月(2025)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月(2026)	2月	3月	4月	5月
検体数	40	40	50	30	35	49	40	40	40	40	39	39	40
陽性数(1検体1とする)	28	31	33	26	19	28	31	35	30	34	24	20	23
不検出数	12	9	17	4	16	21	9	5	10	6	15	19	17
陽性率(%)	70.0%	77.5%	66.0%	86.7%	54.3%	57.1%	77.5%	87.5%	75.0%	85.0%	61.5%	51.3%	57.5%
インフルエンザウイルスA	0	1	0	0	0	5	23	23	2	0	1	0	0
A/H1pdm09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A/H3	0	0	0	0	0	5	20	18	1	0	0	0	0
A亜型不明	0	1	0	0	0	0	3	5	1	0	1	0	0
インフルエンザウイルスB	2	0	0	0	0	0	0	0	12	29	18	2	0
B/ビクトリア系統	2	0	0	0	0	0	0	0	11	29	18	1	0
B/山形系統	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B系統不明	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
新型コロナウイルス	2	9	10	19	14	12	2	7	8	6	1	2	0
RSウイルス	2	6	4	8	0	2	0	0	2	1	1	2	2
A型	1	5	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1
B型	1	1	3	6	0	2	0	0	2	1	1	1	1
型不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヒトパラインフルエンザウイルス	13	14	16	6	2	4	7	8	4	5	5	8	7
1型	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	3	3
2型	0	1	4	1	1	0	3	3	0	3	0	1	1
3型	12	8	3	1	0	3	2	2	0	0	1	2	1
4型	1	5	9	3	0	1	2	3	3	2	2	2	2
型不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヒトメタニューモウイルス	0	1	1	1	0	1	0	0	2	1	3	5	4
ライノ/エンテロウイルス	12	15	12	3	4	10	11	8	8	4	1	8	13
アデノウイルス	2	2	3	0	0	2	3	6	3	1	1	3	1
検出数合計（同一検体からの複数検出含む）	33	48	46	37	20	36	46	52	41	47	31	30	27

※ 1つの検体から複数の病原体が検出される場合あり

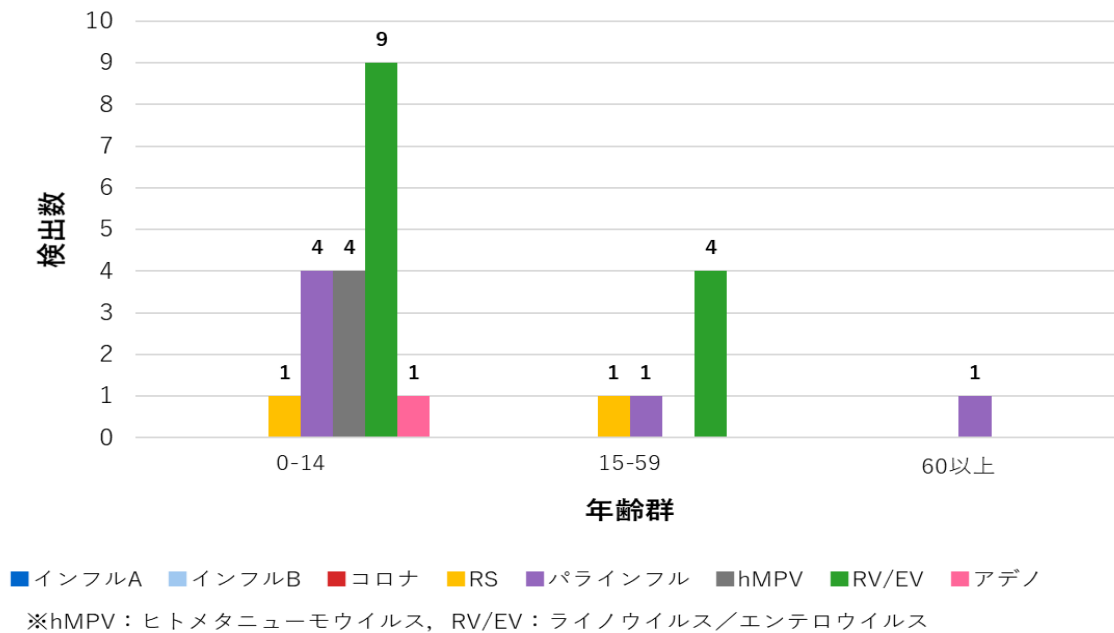
図3：病原体検出状況(週別)



【年齢別病原体検出状況 (図4)】

5月期に採取された検体の年齢別内訳では、0～14歳が最も多く（陽性：16検体/24検体）、検出される病原体の種類も多くみられました。15～59歳では検出割合が減少し（陽性：6検体/13検体）、60歳以上ではさらに減少しました（陽性：1検体/3検体）。

図4：年齢別ARI病原体検出状況(4月期)



※ 1つの検体から複数の病原体が検出される場合もあります